

授業開発活動報告

深野 政之（大学教育研究開発センター）

本活動は、授業に双方向性を持たせることによって学習の質と量を向上させることを目的として、「講義―演習連結型」の授業を実践し、効果の検証、課題の析出を行うことにより、伝統的な講義形式、演習形式に加え得る授業・学習フォーマットの開発、普及を図るものである。

講義―演習連結型授業は、すでに7年にわたって文部科学省ないし学内の教育支援プロジェクトの資金を活用して実践が積み重ねられており、効果が実証されている。授業担当教員による講義と、上級ティーチング・アシスタント（以下、STA）が担当するチュートリアルを組み合わせた授業実践として、「講義と応用演習」「講義と論文指導」「講義と実験と応用」「講義とリメディアル演習」「講義とグループ学習・発表」という5つの授業・学習フォーマットを設定した。

23年度は、STAを夏学期6名、冬学期7名委嘱し、担当教員による講義と連動した演習やグループ学習を実施した。以下は今年度実施した「講義―演習連結型」授業について、STAの業務報告書からSTA業務の内容にかかわる箇所を抜粋したものである。

【講義と応用演習】

科目名：フランス語中級（STA 1名）

- ・授業に用いる機器の準備などの業務補助
- ・答案の添削
- ・授業中に教室を回り、受講生からの質問に回答する
- ・授業中の業務補助

【講義と論文指導】

科目名：ドイツ語圏思想（STA 2名）

- ・チュートリアル参加者の期末レポート執筆支援

講義とは別に3週間に1度の割合で、論文（レポート）作成のためのゼミ形式のチュートリアルを開催した。チュートリアルは各クラス全5回行われた。

【講義とリメディアル演習】

科目名：現代日本語論Ⅰ（STA 2名）

授業のレポートを批評する活動に参加。その参加の方法は2通り。

- (1) 作文を相互に批評しあうというピア・レスポンスという演習を主催。そこでの参加者は、STA 2名、学生3名（×2グループ）、そして授業担当者。STAと学生はあらかじめ準備をして

きて、学生の作文1本あたり30分、濃密な議論をおこなった。これを2コマ開催。

- (2) レポートを提出した学生のなかで15名の希望者に対し、STA 2名および授業担当者の計3名で総合的な添削をおこなった。各学生には、観点が異なる三つの添削を多面的なものの見方を学んでもらい、そのフィードバックをおこなった。

【講義と実験・演習】

科目名：数学演習Ⅰ／数学演習Ⅱ（STA 5名）

- ・授業中に質問受けた生徒に対して個人指導
(授業で扱った微分積分、線形代数の問題の考え方、解法など)
- ・小テストの巡視、配布などの業務補助
- ・小テストの採点

【講義とグループ学習・発表】

科目名：教育と経済開発（STA 3名）

授業は、授業前半は講義形式、授業後半は発表（演習）形式で行われ、後半の発表形式の授業では、受講者をA～Eまでの5グループに分け、毎週1グループずつ発表を行った。

各グループにはSTAが1人つき、各グループに対してグループ研究のサポートや発表時の資料作成のアドバイスをした。STAが受講生に対してサポートを行う目的は、受講生自身の持つ興味関心・問題意識について適切な資料を収集・検討する能力、研究成果を合理的な根拠に基づいて説明する論理的思考能力、そして複数人での共同作業を円滑に進める能力を養うことであった。

講義—演習連結型授業報告会

日時：2012年2月29日（水）午後1時～3時40分

場所：大学教育研究開発センター会議室（東1号館1階）

参加者数：17名

5名のSTAによる活動報告（発表）が行われ、その後、それぞれの授業担当教員から授業形態とSTAによる支援に関する補足説明が行われた。

懇談では、論文作成支援の取り組み、学部生によるピアサポート、STA活動に対するマニュアルやガイドラインの整備等の問題が取り上げられ、あらためてSTAを活用した講義—演習連結型授業の有効性が確認された。

